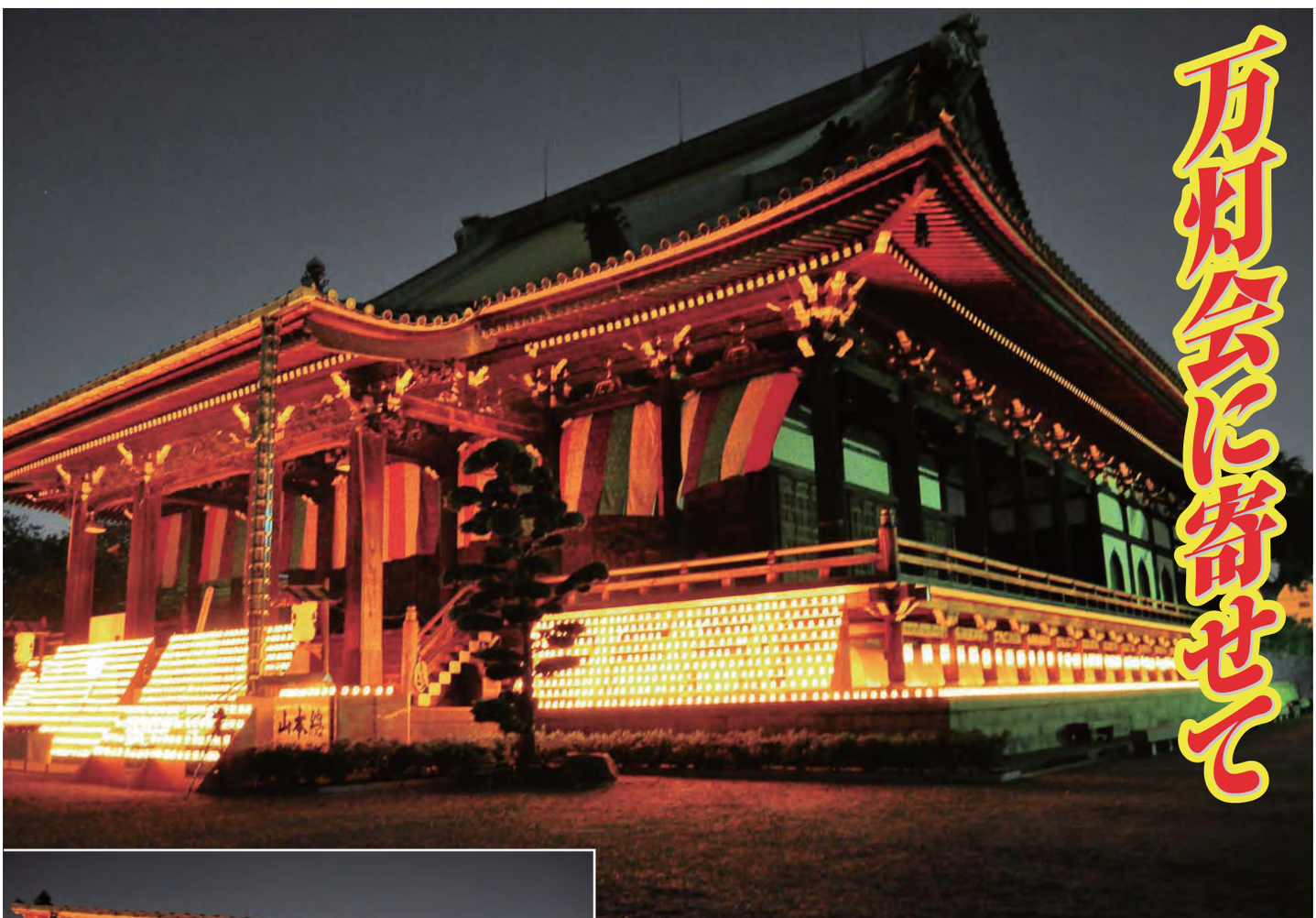
大念佛

No.67
発行／融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巌良舜



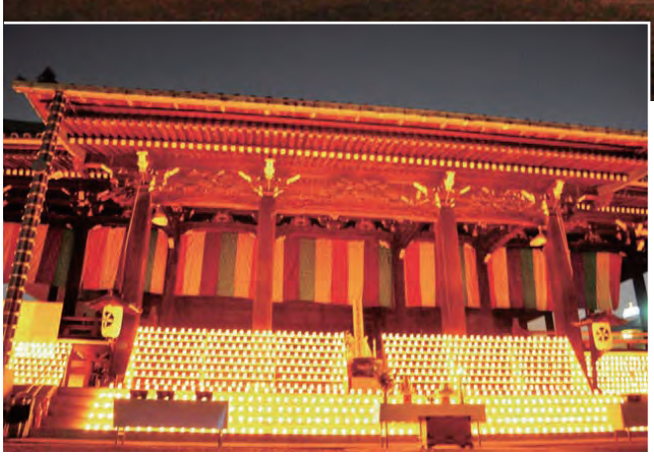
万灯会に寄せて

毎年八月十六日、融通念佛宗総本山 大念佛寺において、万灯会法要が執り行われます。

法要当日は本堂前に精霊棚が組まれ、太陽が西に傾くと、小さな とうろうが順番に供えられていきます。

とうろうには施主名（供えられた方のお名前）や亡き人の戒名、また仏さまへの祈願文（願いごと）が記されています。

内側には一本のろうそくの灯り。とうろうの数が千基を越える頃には、辺りは荘厳な雰囲気に包まれるのです。



訪れた方は、皆さんそれぞれの思いを胸に 合掌の姿をとられます。

今年も亡き人の弔いができた事を喜び、笑顔を浮かべられる方。

自分を見守って下さる御先祖さまに感謝をして、頭（こうべ）を垂れる方。

愛した人を失った寂しさをどうしても埋められずに、一心に手を合わされる方。

涙を流される方もおられます。

喜び、感謝、そして哀しみ――

どんな「思い」であっても、亡き人との大切な「つながり」に変わりはありません。我々が亡き人に「思い」を差し向ける時に、亡き人は我々とつながり、おそばにおられるのです。

「融通」とは、すべてのものが共にあると実感すること。とうろうの灯りが照らし出す人々の姿は、まさしく融通の世界。我々と亡き人が共にある、ひとつになっている世界なのです。極楽の世界なのです。

極楽は十万億土と
いふけれど
ふりかえり見よ
ここも極楽

どうぞ今年も万灯会法要にお参り下さり、「共にある」世界、融通の世界、極楽の世界を味わって頂ければと思います。

編集委員　横田 丈実

納骨供養の意味

融通念佛宗 宗務総長　吉村暲英

死者儀礼

人が亡くなると葬儀、中陰、盆供、月忌、年回忌等、さまざまな仏事が続きます。これを死者儀礼といいます。仏教は本来、生きている人の救済が目的であるはずが、死者儀礼ばかりに目を向けているのはおかしいとの批判をよく耳にします。

しかし"生"は"死"を抜きにして考えられないし、死という一大事をおろそかにして生の充実はありえないのです。民俗学の権威五来重博士はその著書の中で「死者の魂の嘆き、残された者の悲しみ、こういう死の無常を宗教が受けとるのは当然である。」と述べ、日本人が古来、営々として行ってきた死者儀礼について深い洞察を試みておられます。

それは霊魂観とも深い関係を持っています。世に霊魂など信じないという人もいますが、東日本大震災の被災地で、不慮の死を遂げた人の遺族に対して、霊魂などないと豪語すれば、大きな反発を買うでしょう。まさに亡き人の魂の安住を祈り、その叫びを受けとめ、残された人の悲しみに寄り添い、少しでも気持ちを和らげるために、自分にできる何かをしなければとの思いを持つのが人の道というものでしょう。

納骨儀礼

さらに亡き人を供養するのに納骨の儀があります。

納骨の方法は各地においてさまざまですが、基本的には墓とお寺の両方に納めるのが通例です。墓に納めるのは胴骨といって身体全体の骨で容量もかなり多く、そこに亡き人が存在していることの具体的な証しとなるもので、あたかも肉身に接する思いを抱くことができます。これを仏舎利（お釈迦さまの遺骨）になぞらえて身骨舎利といい、肉身の遺形として、親しみと懐かしみをもっての信仰対象となります。

もっともかつて近畿圏にも広く分布が見られた両墓制によれば、埋め墓と拝み墓の二つを有し、埋め墓は遺骸（土葬）や遺骨（火葬）を葬り、竹囲いをして板塔婆を立てる簡素なもので、埋葬後はここへは詣でないというものです。ここでは身骨舎利としての信仰はありません。一方、拝み墓は石造で戒名・俗名を書き入れるが、納骨はせず、もっぱら墓参のためのものです。両墓制には死を不浄とみる日本古来の習慣が背後にあったことは事実ですが、遺骨のない拝み墓のみを信仰の対象としたところに、「真身舎利」あるいは「法頌舎利」の信仰に基づくものがあったと私は考えています。

寺への納骨

遺骨を寺に納めるという習慣は、庶民が墓を所有しなかった鎌倉、室町期より行われていました。土葬の場合は遺髪や遺品が代用となりました。これは「死後の魂は寺へ行くという全国的な伝承」（五来重博士）によるものと思われます。高野山、長谷、室生、出羽三山、恐山など今も霊山として信仰を集めています。霊山イコール寺であります。江戸時代、檀家制度の確立とともに、檀那寺またはその本山が主流となりました。

寺への納骨は、頭部、喉、手指の関節部分などで、本骨といわれるものです。容量も小さく、金襴の布で表面を飾った骨箱が多く使用されています。これは寺へ納めるための装いでもあります。

真身舎利

寺における納骨は、真身舎利、法頌舎利の信仰に基づくものです。

舎利とは梵語シャリーラを音写したもので、広くは身体を意味する言葉ですが、今では一般的に遺骨を指します。中国では舎利は小粒状で堅くて精緻なものとして信じられ、特に高僧の遺骸を荼毘に付した際に得られるものといわれてきました。このことから米粒や米飯をシャリといったりします。

仏教国では、舎利の中でも特にお釈迦さまの遺骨を仏舎利として尊びました。インドではお釈迦さまが入滅されたとき、その仏舎利をバーバー国、クシナーラ国、カピラバァトウ国などインド領内の八ヵ国に分配し供養しました。これを身骨舎利の供養といい、遺骨すなわち舎利をお釈迦さまのお身体そのものとして拝むことです。西域、中国、日本においても舎利供養が盛んになり、各地に舎利塔が造られました。初めはお釈迦さまのお身体そのもの（身骨舎利）として仰がれていたものが、次第にお釈迦さまのお心、さらにはお釈迦さまの教え、あるいは悟りそのものの象徴としての信仰（真身舎利、法頌舎利）へと移っていきました。

もはや舎利は一片の骨という概念を離れて、悟りの具現者としての仏そのものへと信仰が深まっていったのです。

広く一般人の遺骨も仏舎利同様に崇め供養する真身舎利の供養こそ、寺における納骨の特徴であります。

ご本尊のお膝下で丁重に祀られ、朝夕に読経念仏の響きの中で安らぐことのできるのは、寺をおいて他にありません。

また霊骨のみならず、納骨の施主（家族）をはじめ、同伴で参詣する親族、知友の人びとにも、寺の雰囲気が醸し出す宗教性によって、大きな安心と法悦を得ていただくことも大切なことであります。

さらに墓地一ヵ所の納骨の場合、遠隔地への転出や後継人が無いことによる無縁墓地処理も多く見受けるところです。その観点からでも、檀那寺や本山では、真身舎利として永久に尊崇される利点があるといえましょう。

第十教区教化活動

東大寺大仏殿で法要を厳修

来る平成二十七年に予定されております、融通念佛宗開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌大法要をひかえて、第十教区では平成二十五年の教化活動を、華厳宗大本山　東大寺大仏殿で報恩法要として厳修させて頂くことになりました。併せて記念講演会を金鐘会館で開催させて頂きます。

かつて元禄時代に復興された東大寺盧舎那大仏開眼法要に、大通上人以下末寺の僧ら数百人が出仕された事が記録にあります。また本宗第五十九世山上戒全大僧正は、華厳学を東大寺へご出講されました。このように本宗とも深いご縁のある東大寺において、報恩法要を厳修させて頂く事は、本宗の名を広め、平成二十七年の大法要に向けて弾みとなる有意義な事業であると存じます。

今回の法要にあたりましては、総本山はもとより諸役はじめ関係の皆様に種々お力添えを頂きながら準備を進めております。

この機会に、多数の有縁の皆様に是非ご参拝頂きたいと思います。

日時
平成二十五年十月十九日（土）
法要　午前十時より（予定）
於　東大寺大仏殿
記念講演　午後一時より（予定）
於　東大寺金鐘会館
講師　東大寺長老
狭川　宗玄　師

京都大原の

「魚山大原寺 寂源上人勝林院 開創一千年紀」

慶讃法要の奉納

○日時　十月十五日（火）
午前十一時及び午後二時
○場所　京都大原「勝林院」「来迎院」
○内容　・讃師による「日中勤行」「夕時勤行」の慶讃法要の奉納
・菩薩役による「菩薩来迎・登壇」の慶讃奉納
（法要後には法楽として「和泉流狂言」の奉納あり）

今秋の十月十五日（火）午前十一時より大原の「勝林院」で、同日午後二時より「来迎院」で、本宗讃師と菩薩役の方々が、〝京都大原〟の開山一千年の慶讃の法要を奉納されます。

法要は、「日中勤行」を午前に、「夕時勤行」を午後に、それぞれ聲明と如法念仏を式次第に組み入れての厳修となります。今回は、宗祖良忍上人ゆかりの「来迎院」での法要が加わることもあり、報恩慶讃の意を表して、聲明を奉納する讃師に加え、本宗菩薩役の方々も参加され道場に来迎あるいは登壇されることになっています。

清秋の静寂の中、洛北大原の聲明ゆかりの古刹「勝林院」「来迎院」は、さぞ荘厳壮麗で常には見られない貴重な法要道場になることでしょう。

また、午前午後の法要の後は引き続き、楽しみのプログラムとして「法楽」の芸能奉納が予定されています。良忍上人が活躍されていた平安時代末期には、もう既に頻繁に行われて定着していたといわれる「延年」、これは古来よりの〝法会の後の芸能舞台〟の名称ですが、舞楽や散楽、白拍子、小歌など歌舞音曲やお芝居などが繰り広げられていました。十月十五日の今回は午前午後ともに勤行の後、「狂言」が奉納されることになっています。出演は能楽師和泉流狂言方の小笠原匡さんと小笠原弘晃さんで、演目は狂言「呼声」が披露されます。

「魚山大原寺寂源上人勝林院開創一千年紀」慶讃法要について

この慶讃法要は十月五日（土）より二十日（日）までの十六日間の毎日午前午後、天台宗・浄土宗・浄土真宗・真言宗そして融通念佛宗など各宗派が、法要趣旨賛同のもと、それぞれ聲明を中心とした法要が奉納されます。各宗の法要日程・内容等は、現地大原の「千年紀慶讃法要」事務局で調整され、案内されていますので、どうぞお問い合わせください。

●問い合わせ先
（総本山　大念佛寺での案内はありません）
勝林院一千年紀実行委員会
〒六〇一-一二四一
京都市左京区大原勝林院町一八七
宝泉院内
ＴＥＬ〇七五-七四四-二四〇九
ＦＡＸ〇七五-七四四-二九〇二

ぼさつさまぬりえ展示報告

本年も万部法要中、境内の休憩所にて「ぼさつさまぬりえ」の展示を行いました。

このぬりえの展示も今年で第七回を迎え、すっかり万部法要の行事のひとつとして定着してまいりました。

今年は月光王菩薩を画題として、老若男女問わずたくさんの方々にご参加をいただきましたこと御礼申し上げます。

思い思いの色を心を込めて丁寧に塗っていただいた作品は一つとして同じものはなく、おねがいごとも様々でした。休憩所の壁を埋め尽くした「ぼさつさま」は塗っていただいた方々の手によって命を吹き込まれたかのように生き生きとして見え、「ぼさつさま」に添えられたおねがいごとを見ては仕上げていただいた方の純粋な思いが我々の心に伝わり、思わず笑みがこぼれてなんともいえない暖かい気持ちに包まれました。

展示している休憩所にいると、ぬりえを塗られている時のみなさんの楽しそうな笑顔、お子さんのぬりえを見に来られた親御さんやおじいさん、おばあさんの笑顔など、たくさんの笑顔が生み出されるのを見せてもらう事ができます。このような笑顔あふれる休憩所は、単に身体の疲れをとるだけではなく、心までも癒される憩いの場所となることができたと実感しました。

その思いから、皆様がお礼の言葉といっしょにぬりえを持ってきてくださった時、かえって我々の方が「この笑顔あふれる休憩所作りに協力してくださってありがとうございます」という感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、その感謝の気持ちをもってみなさまの願いが叶うようにと、万部法要後の五月八日には青年会一同によるぬりえの祈願成就の法要を執り行いました。

来年も一人でも多くの方々に参加していただけるよう青年会一同お願い申し上げます。

融通念佛宗青年会　竹岡　淳雄

御遠忌だより

新延喜殿順調に工事進む

御遠忌記念事業として着工している新延喜殿の工事が順調に進んでおります。

写真は、六月中旬頃の工事風景です。今年の冬までには、完成予定です。

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

金曜日…融通念佛宗　各宗

（月曜日～金曜日　一月十一日～十二月二十四日（八月休）

でんわ　〇六（六二四五）五一一〇

午後二時～五時迄

大念佛寺 年中行事ご案内（八月～年末）

◎八月十六日（金）　午後七時
盂蘭盆・法界大施餓鬼

◎八月十六日（金）　午後八時
万灯会

◎九月九日（月）
午前五時　半斎勤行
午前六時
大和御回在御出光
大念佛寺から毎年大和地方に御本尊の天得如来の画軸を奉持し、鉦を叩きながら末寺と檀家の家々を回り、念佛勧進・御祈祷と先祖供養を行います。
元祖聖応大師の念仏勧進の姿を今に伝える行事です。

◎九月十六日（月・祝）
午前十一時
融通念仏会
ご一緒にお念仏を称えましょう。

◎九月十六日（月・祝）
午後一時
百万遍会（大数珠繰り）
数珠繰りの後、法主猊下の身体堅固のお加持が参詣者一人一人に授けられます。
その後御札授与。

◎十月十五日（火）　午前十時
亀鉦まつり
本山に伝わる亀鉦をお祀りする法要の後、融通教会会員による詠讃歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。

◎十一月三日（日・祝）
午前十一時・午後二時
胎内仏納骨法要

◎十一月十四日（木）
午後一時
十夜会
本堂に於いて布教、詠讃歌舞奉納等があります。
（厄除がゆ施与）

◎十二月一日（日）
午前十一時
後小松天皇忌

◎十二月十七日（火）　正午
大和御回在御帰院

◎十二月三十一日（火）
午後十一時
除夜法要
（鐘撞き、ぜんざい施与）

◎毎月二十六日
午後一時三十分
定例布教

★写経のご案内
毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経（一巻 千円）を行っております。

★納骨のご案内
本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。

★瓦勧進のご案内
一口二千円で本堂に於いて受け付けております。

●お問い合わせ
大念佛寺宗務所
☎〇六―六七九一―〇〇二六

暑中御伺

融通念佛宗総本山
大念佛寺

法主	倍巌　良舜
管長	吉村　暲英
宗務総長	中江　慈光
教学部長	岡田　眞澄
庶務部長	北川　全宏
財務部長	